

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2007年第34週
(8月20日～8月26日)

- * 2007年8月29日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「日本紅斑熱」も掲載しています。
- * 今週分の全国データについては、集計中のため本週報には掲載しておりません。次週分に掲載の予定です。

2007年8月30日発行

編集・発行

東京都医師会感染症予防検討委員会
東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 患者報告数 2007年34週

分類	疾病名	東京都分(報告週)					全国分(診断週)	
		31週	32週	33週	34週	年累計	34週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	102	79	68	59	1559		7638
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *							
三類	コレラ					2		9
	細菌性赤痢		2	1	4	56		320
	腸管出血性大腸菌感染症	21	9	8	9	353		2277
	腸チフス	1			1	7		24
	パラチフス					4		9
四類	E型肝炎					2		38
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎		1			15		103
	エキノкокクス症	1				4		12
	黄熱							
	オウム病					1		23
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱							3
	狂犬病							
	コクシジオイデス症					2		3
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	つつが虫病					2		93
	デング熱				2	10		46
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ #							
	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱							30
	日本脳炎							1
	発しんチフス							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							1
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	ボツリヌス症							2
マラリア					15		29	
野兔病			1					
ライム病	1			1	2		4	
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽								
レジオネラ症	2	4		1	33		382	
レプトスピラ症					2		8	
ロッキー山紅斑熱								

分類	疾病名	東京都分(報告週)					全国分(診断週)	
		31週	32週	33週	34週	年累計	34週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	6	9	3	2	118		502
	ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)	2		1		27		140
	急性脳炎 **	2		2	2	15		155
	クリプトスポリジウム症				1	1		4
	クロイツフェルト・ヤコブ病					8		97
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症					3		65
	後天性免疫不全症候群	12	7	12	5	322		907
	ジアルジア症				1	11		32
	髄膜炎菌性髄膜炎					1		12
	先天性風しん症候群							
	梅毒	5	6	2	1	90		408
	破傷風					1		59
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1		11		44
指定	インフルエンザ(H5N1)							
2007/8/29集計								

* 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

** ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

2007年14週集計分より「高病原性鳥インフルエンザ」から「鳥インフルエンザ」に変更

※今週分の全国データについては、集計中のため本週報には掲載しておりません。次週分に掲載の予定です。

(全数把握対象疾患のコメント)

〈二類感染症〉

結核 59件

肺結核44件、その他15件で、推定感染地は国内41件、不明18件であった。年齢群は、5歳未満2件、10歳代3件、20歳代6件、30歳代10件、40歳代8件、50歳代5件、60歳代5件、70歳代7件、80歳代11件、90歳代2件であった。

〈三類感染症〉

細菌性赤痢 4件

ソネ菌3件、フレキシネル1件で、推定感染地はタイ2件、エジプト1件、インド/ネパール1件であった。ソネ菌の1件と同じ症例から、クリプトスポリジウム症およびジアルジア症も報告されていた(今週掲載分)。

腸管出血性大腸菌感染症 9件

患者7件、無症状病原体保有者2件で、血清型・毒素型は、O157 VT1・VT2 5件、O157 VT2 3件、O26 VT1 1件であった。年齢群は、10歳未満1件(うち5歳未満2件)、20歳代2件、30歳代1件、60歳代1件、70歳代1件であった。O157 VT1・VT2のうち3件は同じ家族からの報告であった。

腸チフス 1件

推定感染地はネパールであった。

〈四類感染症〉

デング熱 2件

推定感染地はいずれもバングラデシュであった。

ライム病 1件

推定感染地は米国ミネソタ州であった。

レジオネラ症 1件

肺炎型、70歳代で、感染経路は不明であった。

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 2件

腸管アメーバ症1件、腸管外アメーバ症1件で、推定感染地はいずれも国内、推定感染経路は飲食物による経口感染1件、不明1件であった。

急性脳炎 2件

病原体はアデノウイルス疑いが1件、不明1件であった。

クリプトスポリジウム症 1件

推定感染地はインド/ネパールであった。

後天性免疫不全症候群 5件

無症候キャリア4件、AIDS 1件であった。推定感染地はすべて国内で、推定感染経路はすべて同性間性的接触であった。

ジアルジア症 1件

推定感染地はインド/ネパールであった。

梅毒 1件

早期顕症梅毒 I 期で、推定感染経路は異性間性的接触であった。

五類定点把握対象疾患 患者報告数 2007年34週

疾病名	2007年				4週合計	年累計
	31週	32週	33週	34週		
RSウイルス感染症	0	3	0	4	7	537
インフルエンザ	4	1	0	0	5	43,788
咽頭結膜熱	75	63	25	30	193	2,215
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	145	118	65	71	399	8,361
感染性胃腸炎	449	414	295	446	1,604	25,203
水痘	110	67	51	61	289	6,666
手足口病	325	288	158	157	928	2,780
伝染性紅斑	52	42	13	26	133	2,444
突発性発しん	88	86	63	76	313	2,950
百日咳	3	4	1	0	8	41
風しん	1	0	1	0	2	27
ヘルパンギーナ	807	552	268	180	1,807	5,764
麻しん(成人麻しんを除く)	1	2	0	1	4	283
流行性耳下腺炎	44	39	17	30	130	1,400
不明発しん症	18	18	11	13	60	446
MCLS	1	5	1	4	11	79
急性出血性結膜炎	2	1	2	6	11	43
流行性角結膜炎	20	18	10	27	75	604
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	19
無菌性髄膜炎	1	4	5	2	12	38
マイコプラズマ肺炎	5	3	3	3	14	122
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	1	1	1	3	10
成人麻しん	3	2	1	0	6	246
2007/8/29集計						

(定点把握対象疾患のコメント)

- ・咽頭結膜熱、手足口病、ヘルパンギーナ等、夏期に流行する疾患の定点当たり報告数は、引き続き減少傾向にある。
- ・百日咳の報告数はゼロであった。
- ・急性出血性結膜炎の定点当たり報告数は、今年では最も多い。週毎の変動が大きいので、今後の傾向に注意する必要がある。
- ・無菌性髄膜炎の定点当たり報告数は減少し、過去5年平均を下回った。

五類定点把握対象疾患 患者報告数【年齢階級別】 2007年34週

	RS ウイルス 感染症	インフルエ ンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん
～5か月	1				9		1		4
～11か月			2	1	43	2	10		29
1歳			5	2	64	16	45	3	34
2歳	2		7	6	62	21	43	3	7
3歳	1		3	9	37	11	18	5	1
4歳			4	11	39	6	17	2	1
5歳			5	4	22	2	10	3	
6歳			1	7	19		7	3	
7歳				4	24	2	1	2	
8歳				3	12		4	1	
9歳				5	11				
10～14歳			3	6	38	1		2	
15～19歳				3	11		1		
20～29歳				10	55			2	
30～39歳									
40～49歳									
50～59歳									
60～69歳									
70～79歳									
80歳以上									
合計	4	-	30	71	446	61	157	26	76
先週比	4	0	8	17	157	12	2	13	14

注:小児科定点把握対象疾病のうち、「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	百日咳	風しん	ヘルパン ギーナ	麻しん (成人麻しん を除く)	流行性 耳下腺炎	急性出血性 結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発しん症	MCLS
～5か月			2						2
～11か月			17					1	
1歳			63		3		2	3	
2歳			32		1		3	2	1
3歳			17		5			2	1
4歳			20		3	2		1	
5歳			9		3			2	
6歳			7		4		1	1	
7歳			4					1	
8歳			2		4				
9歳			3		2				
10～14歳			3	1	4		1		
15～19歳							2		
20～29歳			1		1	1	6		
30～39歳						2	4		
40～49歳						1	2		
50～59歳							3		
60～69歳									
70～79歳							3		
80歳以上									
合計	-	-	180	1	30	6	27	13	4
先週比	-1	-1	-88	1	13	4	17	2	3

注:小児科定点把握対象疾病のうち、「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

五類定点把握対象疾患 患者報告数【保健所別】2007年34週

	RS ウイルス 感染症	インフルエ ンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳
千代田	1					1	2		1	
中央区					10		5		4	
みなと				5	11	4	25	1	1	
新宿区	1		1	7	5	2	5			
文京				1	1					
台東			5		22	1	2		3	
墨田区				2	12	1	1	1		
江東区				3	32		9		3	
品川区			1	1	34	1	7	2	4	
目黒区				1	4		2			
大田区			9	3	41	1	4		3	
世田谷				1	11	9	12	7	4	
渋谷区					9		1		1	
中野区	2				15	1	1		2	
杉並			2	2	17	1	8	1	5	
池袋						1	1		1	
北区				2	8	3	13		7	
荒川区				2	5	2	2		1	
板橋区					7	2	3	1		
練馬区			2	5	11	2	9		2	
足立			3	1	19	2			2	
葛飾区			1	5	10	4	5	1	4	
江戸川					14		2		1	
西多摩			1	5	5	5	1	1	2	
八王子			1	9	38	2	4	3	5	
南多摩				4	15	5	4	2	4	
町田			1	4	19	4	2	4	5	
多摩立川					14	1	1		2	
多摩府中			1	2	11	1	4	2	3	
多摩小平			2	6	44	5	9		6	
島しょ					2		13			

東京都合計	4	-	30	71	446	61	157	26	76	-
定点当り報告数	0.03	-	0.21	0.50	3.12	0.43	1.10	0.18	0.53	-

	風しん	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人麻疹 を除く)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発しん症	MCLS	合計
千代田		1						2	8
中央区				3					22
みなと		3							50
新宿区		6		1		1			29
文京		3		1					6
台東		3							36
墨田区		2		1		3			23
江東区		13		1		3			64
品川区		7		2					59
目黒区		4				1			12
大田区		14		2		1	1	1	80
世田谷		13			1				58
渋谷区		5				1			17
中野区		2				2			25
杉並		2		2					40
池袋		2		1					6
北区		17							50
荒川区		2		1		5			20
板橋区									13
練馬区		2		1					34
足立		4		2	4	2			39
葛飾区		14		3			3		50
江戸川		2				2			21
西多摩		1							21
八王子		6		2		1	1		72
南多摩		5	1	2			2		44
町田		12		2			1		54
多摩立川		8		1	1		2	1	31
多摩府中		5				2	1		32
多摩小平		22		2		3	2		101
島しょ									15

東京都合計	-	180	1	30	6	27	13	4	1,132
定点当り報告数	-	1.26	0.01	0.21	0.17	0.75	0.09	0.03	

五類定点把握対象疾患 患者報告数【保健所別・定点当たり】 2007年34週

	RS ウイルス 感染症	インフルエ ンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳
千代田	0.25					0.25	0.50		0.25	
中央区					3.33		1.67		1.33	
みなと				0.83	1.83	0.67	4.17	0.17	0.17	
新宿区	0.20		0.20	1.40	1.00	0.40	1.00			
文京				0.33	0.33					
台東			1.67		7.33	0.33	0.67		1.00	
墨田区				0.67	4.00	0.33	0.33	0.33		
江東区				0.75	8.00		2.25		0.75	
品川区			0.20	0.20	6.80	0.20	1.40	0.40	0.80	
目黒区				0.33	1.33		0.67			
大田区			1.00	0.33	4.56	0.11	0.44		0.33	
世田谷				0.13	1.38	1.13	1.50	0.88	0.50	
渋谷区					2.25		0.25		0.25	
中野区	0.33				2.50	0.17	0.17		0.33	
杉並			0.33	0.33	2.83	0.17	1.33	0.17	0.83	
池袋						0.33	0.33		0.33	
北区				0.50	2.00	0.75	3.25		1.75	
荒川区				1.00	2.50	1.00	1.00		0.50	
板橋区					1.17	0.33	0.50	0.17		
練馬区			0.40	1.00	2.20	0.40	1.80		0.40	
足立			0.60	0.20	3.80	0.40			0.40	
葛飾区			0.25	1.25	2.50	1.00	1.25	0.25	1.00	
江戸川					4.67		0.67		0.33	
西多摩			0.20	1.00	1.00	1.00	0.20	0.20	0.40	
八王子			0.25	2.25	9.50	0.50	1.00	0.75	1.25	
南多摩				1.00	3.75	1.25	1.00	0.50	1.00	
町田			0.25	1.00	4.75	1.00	0.50	1.00	1.25	
多摩立川					2.33	0.17	0.17		0.33	
多摩府中			0.10	0.20	1.10	0.10	0.40	0.20	0.30	
多摩小平			0.40	1.20	8.80	1.00	1.80		1.20	
島しょ					2.00		13.00			

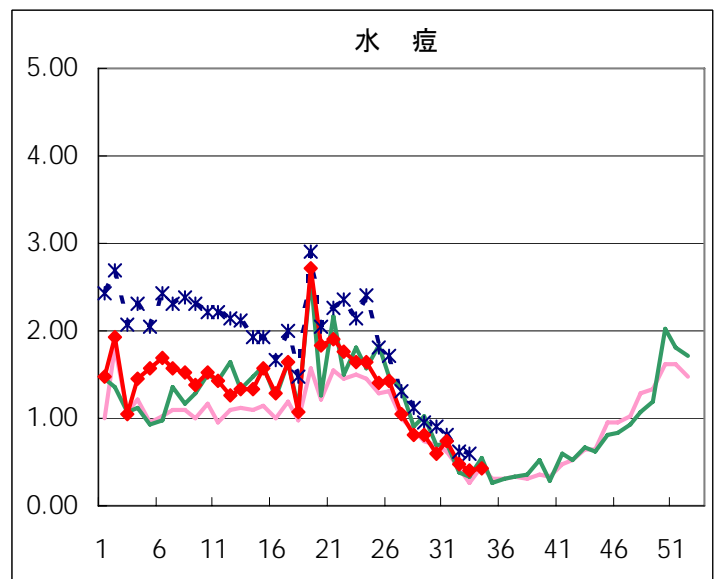
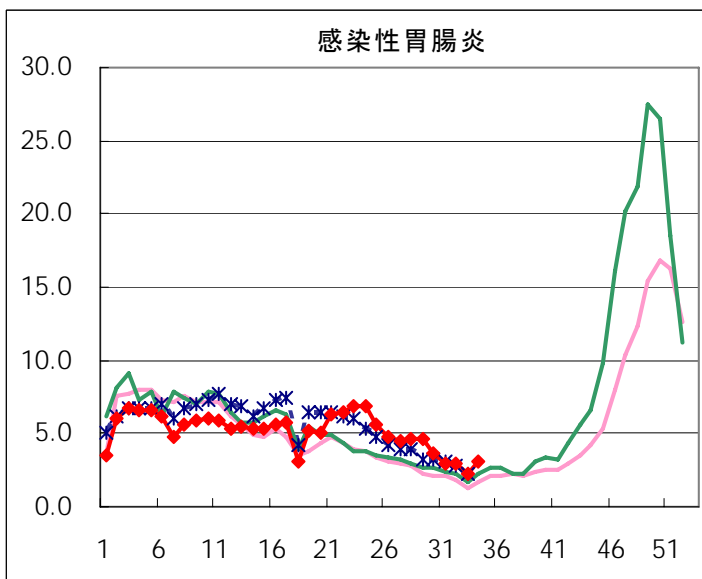
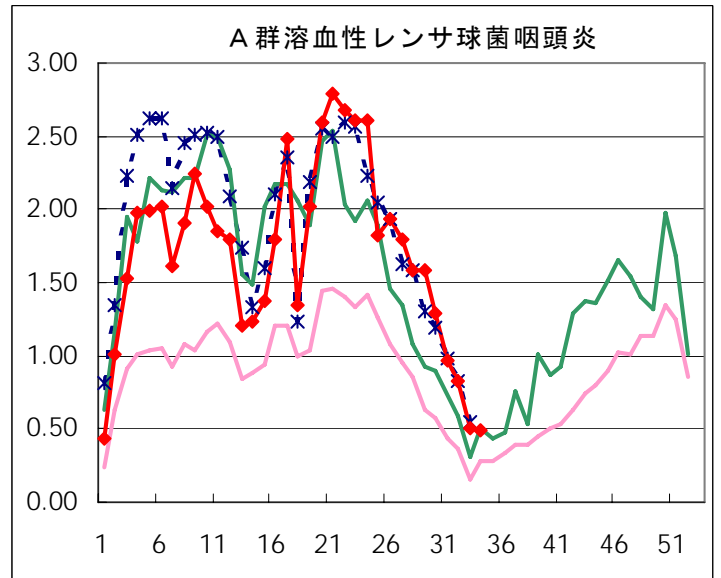
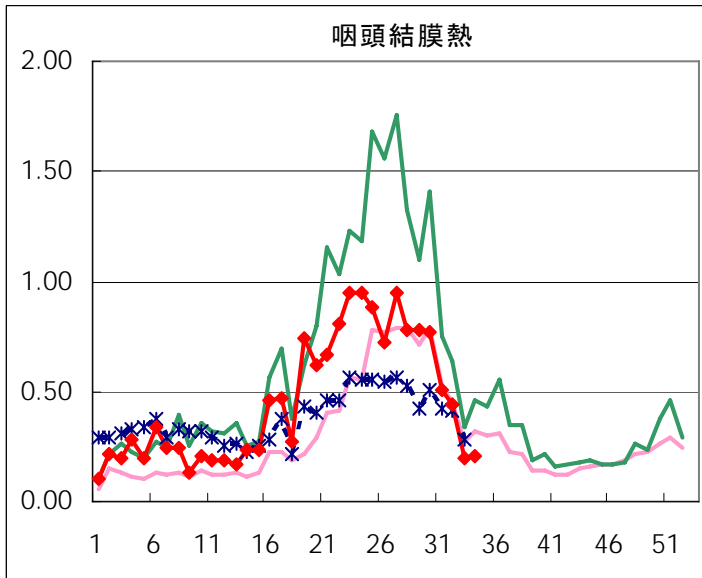
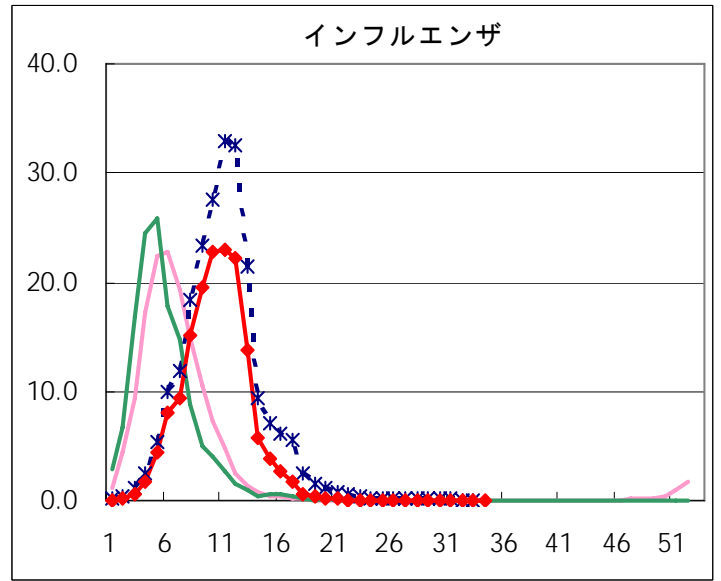
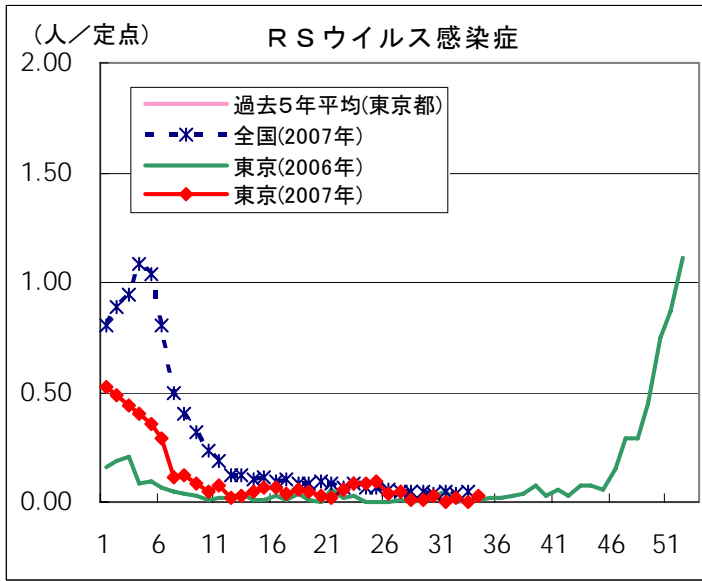
東京都合計	4	-	30	71	446	61	157	26	76	-
定点当り報告数	0.03	-	0.21	0.50	3.12	0.43	1.10	0.18	0.53	-

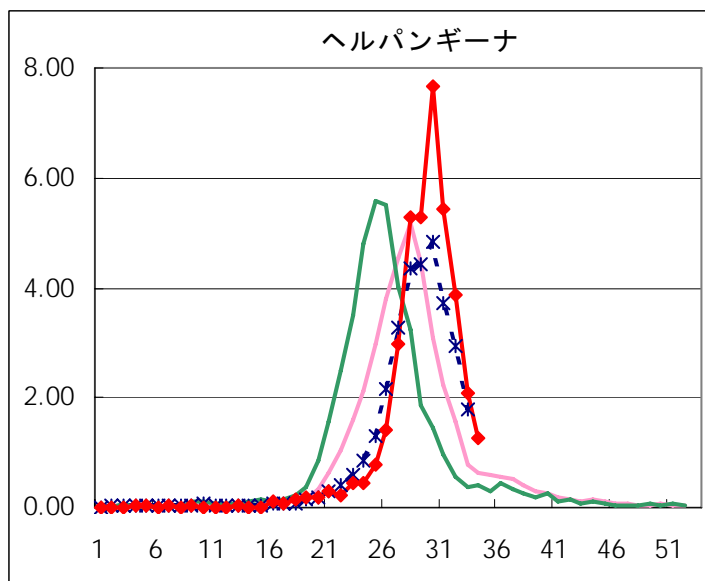
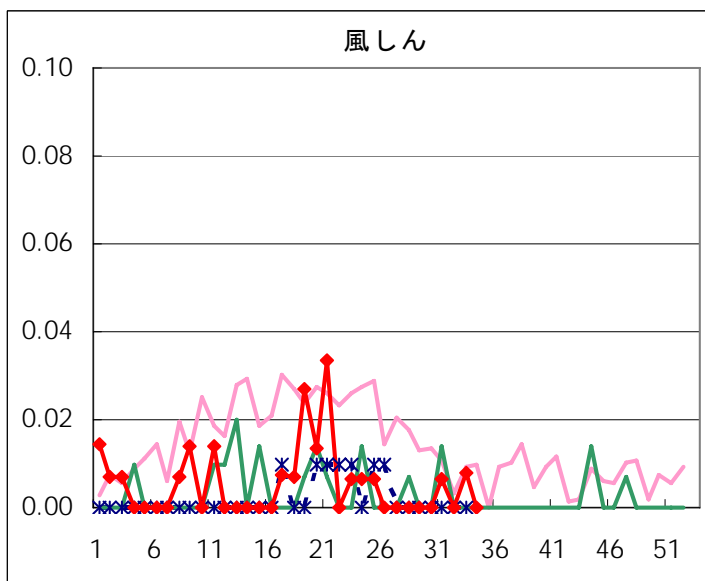
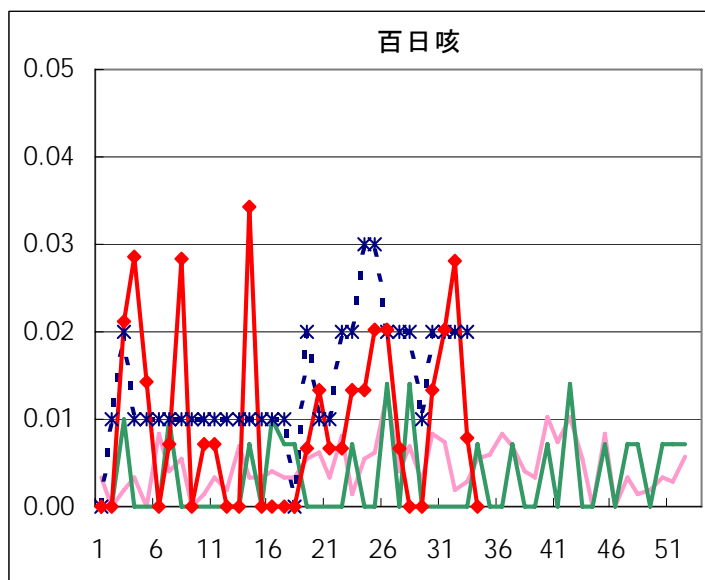
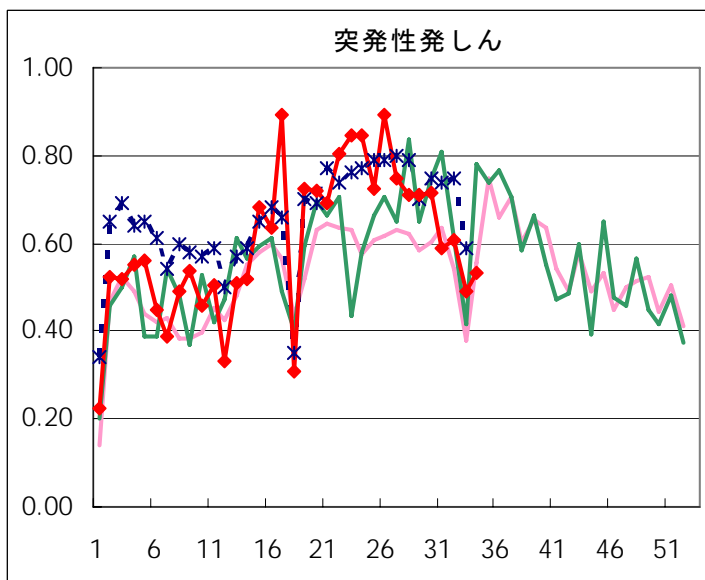
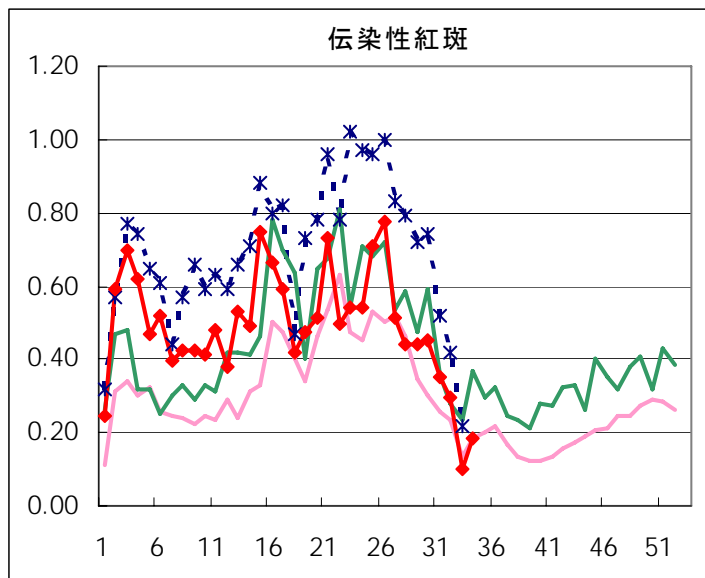
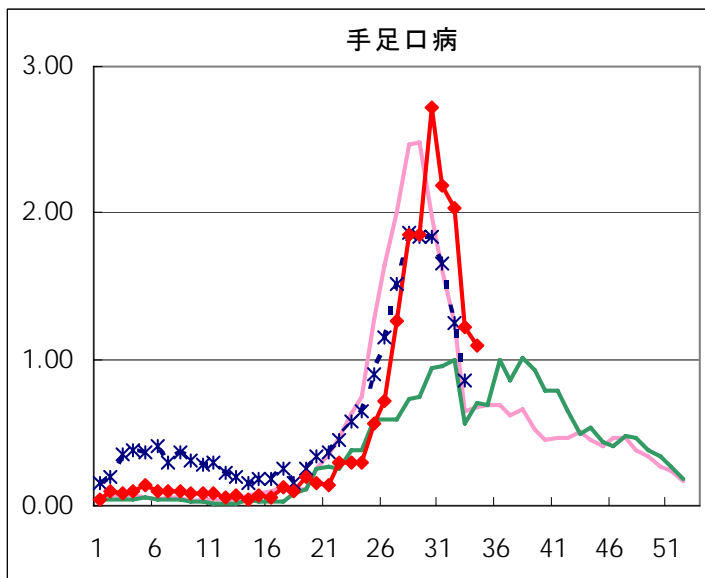
	風しん	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人麻疹 を除く)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発しん症	MCLS
千代田		0.25						0.50
中央区				1.00				
みなと		0.50						
新宿区		1.20		0.20		0.50		
文京		1.00		0.33				
台東		1.00						
墨田区		0.67		0.33		3.00		
江東区		3.25		0.25		3.00		
品川区		1.40		0.40				
目黒区		1.33				1.00		
大田区		1.56		0.22		0.50	0.11	0.11
世田谷		1.63			0.50			
渋谷区		1.25				1.00		
中野区		0.33				2.00		
杉並		0.33		0.33				
池袋		0.67		0.33				
北区		4.25						
荒川区		1.00		0.50		5.00		
板橋区								
練馬区		0.40		0.20				
足立		0.80		0.40	2.00	1.00		
葛飾区		3.50		0.75			0.75	
江戸川		0.67				1.00		
西多摩		0.20						
八王子		1.50		0.50		0.50	0.25	
南多摩		1.25	0.25	0.50			0.50	
町田		3.00		0.50			0.25	
多摩立川		1.33		0.17	0.50		0.33	0.17
多摩府中		0.50				1.00	0.10	
多摩小平		4.40		0.40		3.00	0.40	
島しょ								

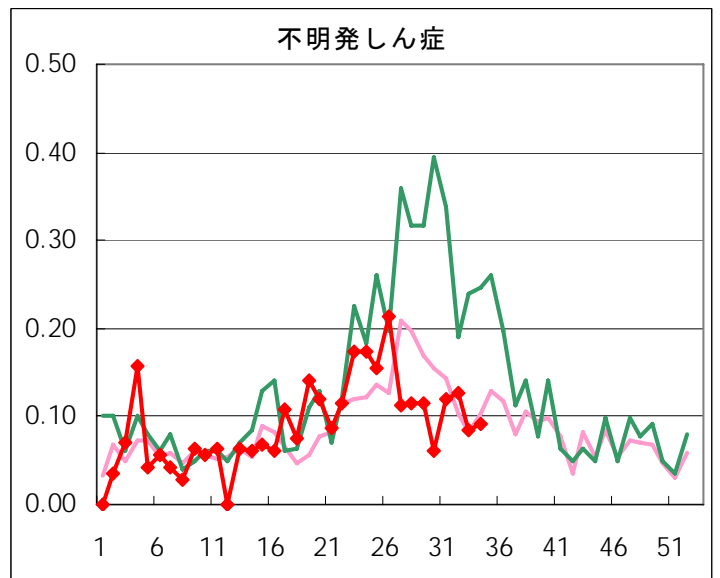
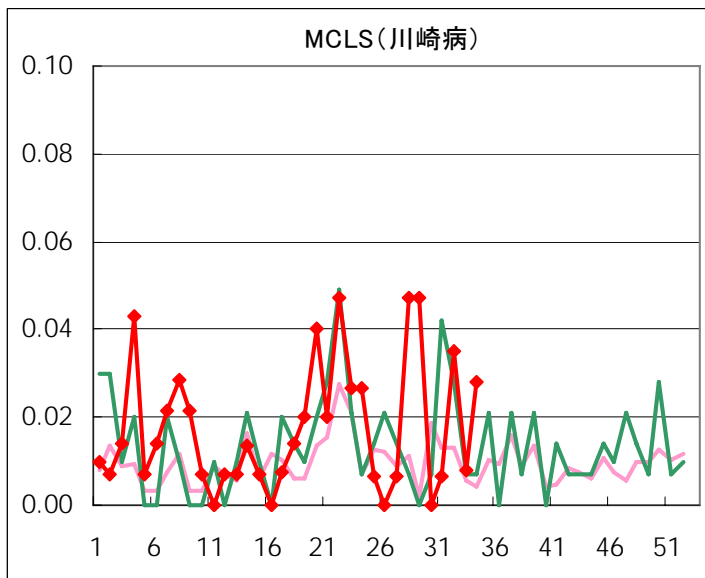
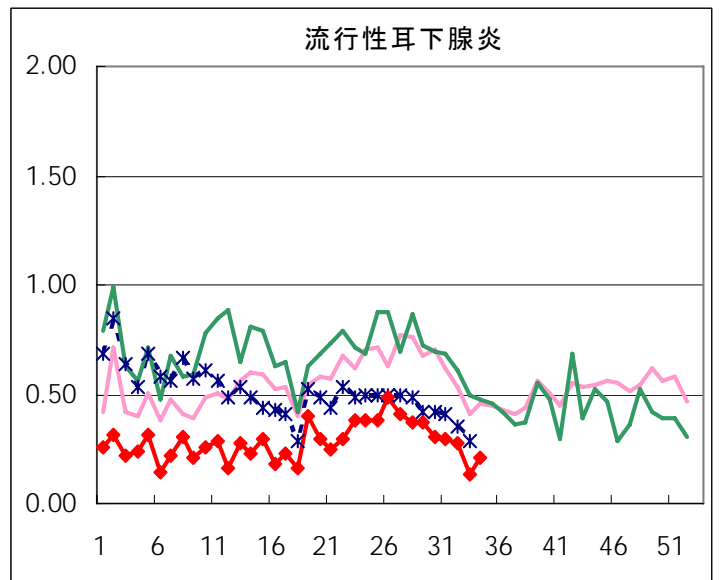
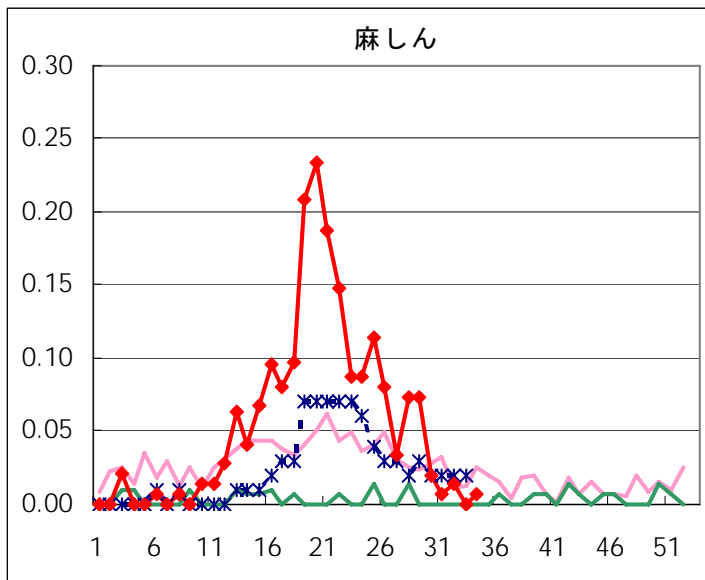
東京都合計	-	180	1	30	6	27	13	4
定点当り報告数	-	1.26	0.01	0.21	0.17	0.75	0.09	0.03

五類定点把握対象疾患 患者報告数【推移グラフ】 2007年34週現在

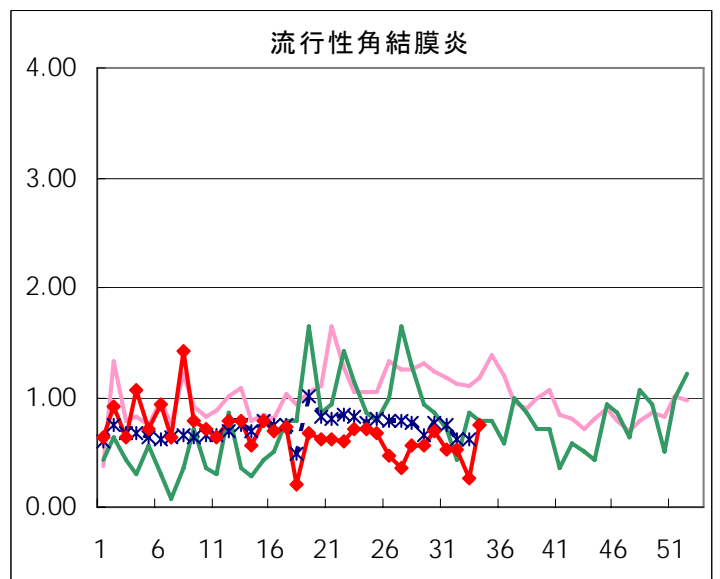
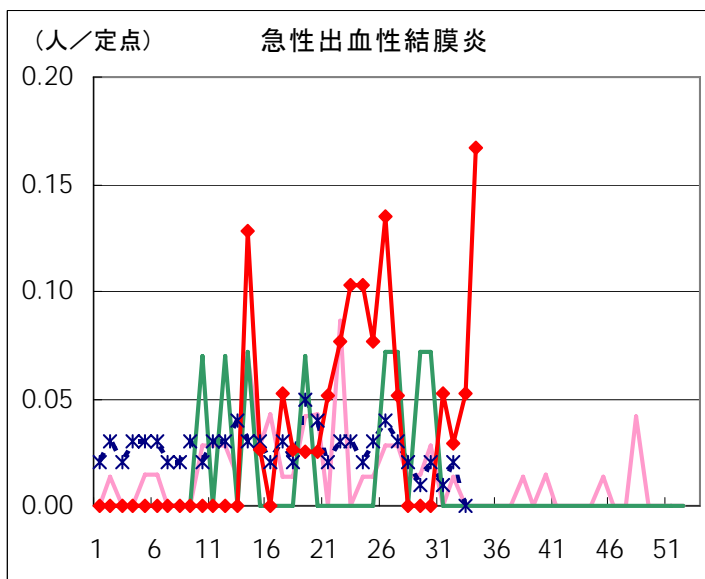
◆ 小児科・インフルエンザ定点



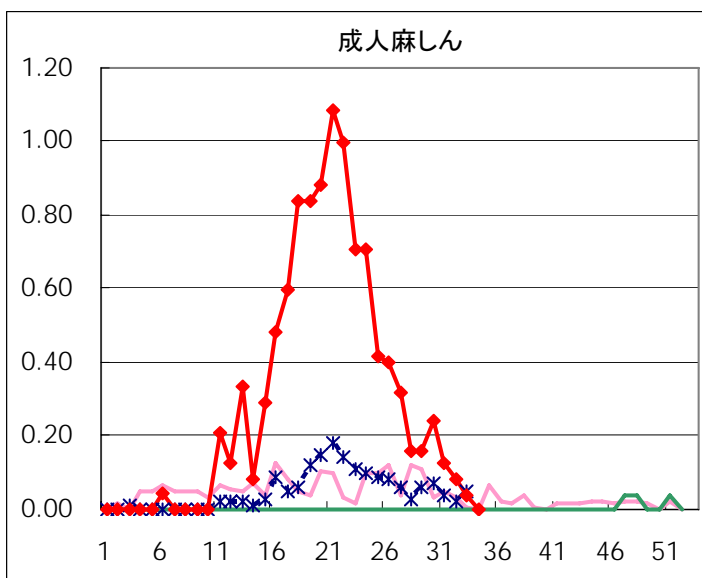
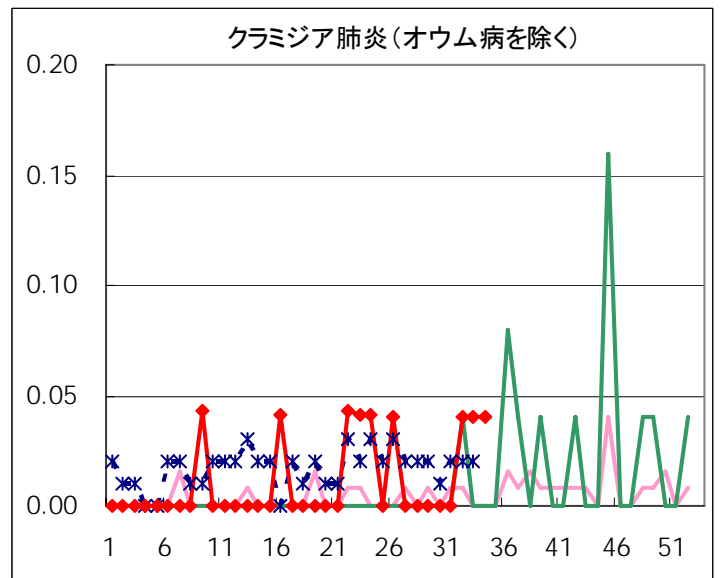
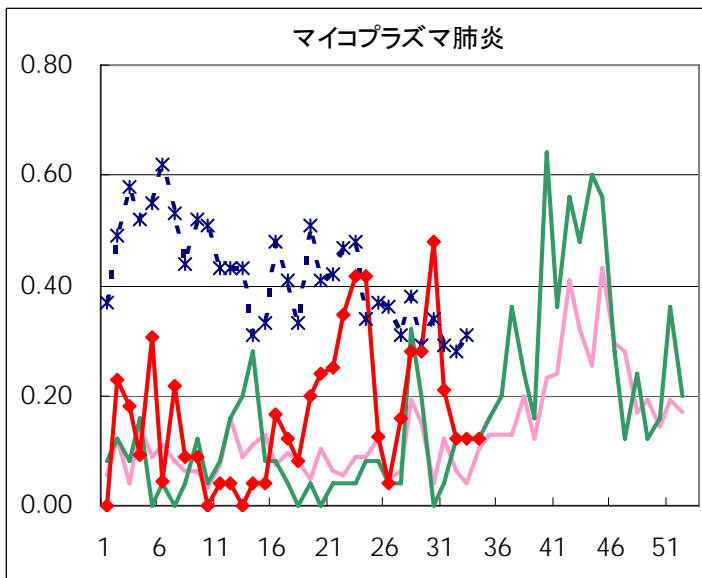
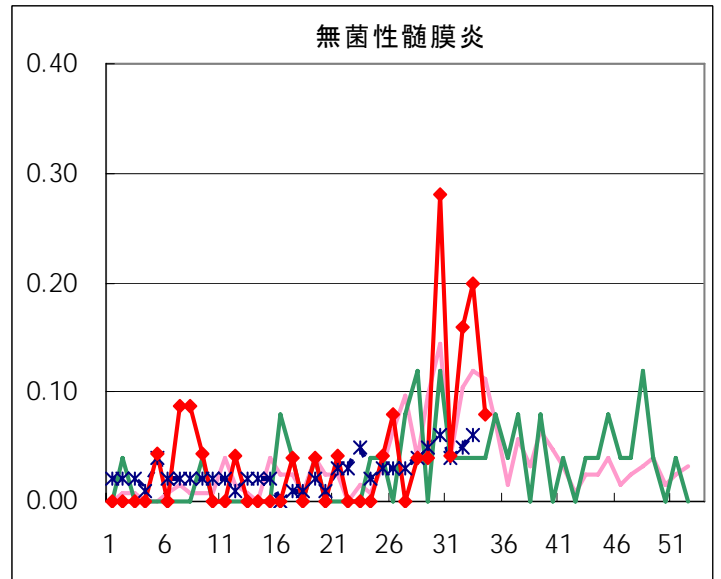
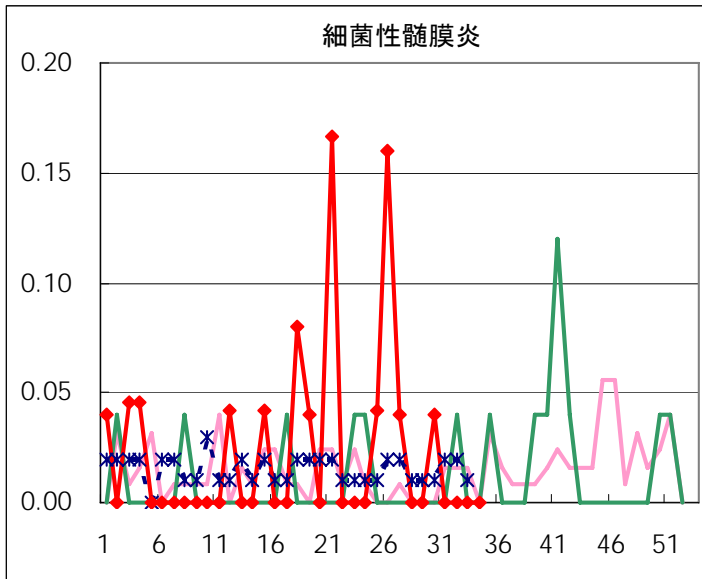




◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



疾患別の定点医療機関数(週単位報告分)			
定点種別	疾患	定点医療機関数	報告医療機関数
インフルエンザ	インフルエンザ	290	279
眼科	急性出血性結膜炎	39	36
	流行性角結膜炎		
基幹	細菌性髄膜炎	25	25
	無菌性髄膜炎		
	マイコプラズマ肺炎		
	クラミジア肺炎		
	成人麻疹		
小児科	上記を除く疾病	150	143

病原体検査情報

◇定点(病原体)医療機関からの搬入検体

*原則として検体採取日の順に掲載しています。

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
8/1	流行性角結膜炎	18	結膜拭い液	アデノウイルス	遺伝子
8/8	無菌性髄膜炎	29	髄液	エンテロウイルス	
8/10			咽頭拭い液		
8/9	無菌性髄膜炎	5	髄液	エコーウイルス30型	
8/10	発熱	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型	
8/10	麻疹	1	咽頭拭い液	ライノウイルス	
8/10	髄膜炎	2M	咽頭拭い液	サイトメガロウイルス	
8/10	流行性角結膜炎	36	結膜拭い液	アデノウイルス	
8/10	ヘルパンギーナ	6	結膜拭い液	エンテロウイルス	
8/11	髄膜炎	5	髄液	エコーウイルス30型	
8/11	髄膜炎	56	髄液	エンテロウイルス	
8/13			糞便		
			咽頭拭い液		
8/11	発熱 無菌性髄膜炎	0	髄液	コクサッキーウイルスA群16型	
8/11	記載無し	8	咽頭拭い液	ライノウイルス	
8/12	髄膜炎	5	髄液	エコーウイルス30型	
8/12	発熱	0	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
8/13	髄膜炎	9	髄液	エコーウイルス30型	
8/13	肝脾腫	1	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群16型 EBウイルス サイトメガロウイルス	
8/14	乳児下痢症	8M	糞便	コクサッキーウイルスA群16型	
8/14	喘息 急性気管支炎	7	咽頭拭い液	アデノウイルス ヒトメタニューモウイルス	
8/14	髄膜炎	9	髄液	エンテロウイルス	
8/15	無菌性髄膜炎	39	髄液	エコーウイルス30型	
8/16			血清		
			咽頭拭い液		
8/15	不明発しん症	2	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型	
8/16	咽頭炎	18	咽頭拭い液	ライノウイルス	
8/16	髄膜炎	25	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
8/16	髄膜炎	33	咽頭拭い液	エコーウイルス30型	
8/16	急性扁桃炎	6	咽頭拭い液	アデノウイルス	
8/16	手足口病 熱性けいれん	3	咽頭拭い液	エンテロウイルス71型 ヒトヘルペスウイルス6型	
8/17	急性咽頭炎	2	咽頭拭い液	アデノウイルス	
8/17	突発性発しん	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型	
8/17	不明発しん	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型	

週別検査状況 2007年26週～33週

検出病原体・抗体		2007年								合計
		26	27	28	29	30	31	32	33	
ウイルス	アデノ	3	1	3		2	5	4	5	23
	ライノ		2	1	1	3	3	1	3	14
	ポリオ									
	コクサッキーA群		3	1					3	7
	コクサッキーB群									
	エコー								8	8
	エンテロ71			3	9			1	3	16
	その他のエンテロ	2	4	4	2	16	16	19	7	70
	単純ヘルペス				1		1			2
	水痘・帯状疱疹									
	ヘルペス6/7	6	3	3	2	3	4	1	5	27
	EB		2			1		1	1	5
	サイトメガロ				1		1		2	4
	ムンプス			1				1		2
	麻疹	3	1					1		5
	風しん									
	パルボB19				1					1
	RS					1				1
	ノロ									
	ロタ									
	インフルエンザAH1									
	インフルエンザAH3							1		1
	インフルエンザB									
デング			1						1	
その他のウイルス	6	9	8	12	8	2	3	1	49	
細菌	カンピロバクター	2			1			2		5
	サルモネラ									
	腸管出血性大腸菌									
	その他の腸管系病原菌									
	溶血性レンサ球菌		1							1
	その他の細菌									
その他の病原体						2				2

臨床診断名別検査結果 2007年26週～33週

臨床診断名 検出病原体	インフル エンザ	上 気 道 炎	下 気 道 炎	感 染 性 胃 腸 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 連 菌 咽 頭 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	ヘル パン ギー ナ	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	不 明 発 し ん 症	流 行 性 耳 下 腺 炎	水 痘	麻 し ん	風 し ん	そ の 他	合 計
搬入検体数	22	52	40	34	74	1		6	7	10	3	13	3		4		115	
アデノ	1	7	3	1				4				1			1		5	23
ライノ		2	6		1							1			1		3	14
ポリオ																		
コクサッキーA群				1	1					3							2	7
コクサッキーB群																		
エコー					8													8
エンテロ71		7			2				1	5							1	16
その他のエンテロ	2	14	4	1	24	1			5	2	1	3					13	70
単純ヘルペス																	2	2
水痘・帯状疱疹																		
ヘルペス6/7			1						2	1	1	5					17	27
EB		1										1			1		2	5
サイトメガロ			2		1												1	4
ムンプス		1											1					2
麻しん												1			3		1	5
風しん																		
パルボB19											1							1
RS			1															1
ノロ																		
ロタ																		
インフルエンザAH1																		
インフルエンザAH3	1																	1
インフルエンザB																		
デング																	1	1
その他のウイルス		25	20	2													2	49
カンピロバクター				5														5
サルモネラ																		
腸管出血性大腸菌																		
その他の腸管系病原菌																		
溶血性レンサ球菌		1																1
その他の細菌																		
その他の病原体			2															2
備考																		

<感染症豆知識>

日本紅斑熱

日本紅斑熱は世界に分布する紅斑熱群リケッチア症の一種である。1984年に我が国で初めて確認され、現在では年間40～60名程度の患者が報告されており、夏から秋にかけて多い。

病原体はリケッチア・ジャポニカで、病原体に感染したマダニに刺咬されることにより感染する。動物→ダニ→動物の感染環で自然界に存在し、ヒト→ヒト感染はない。

臨床症状は、2～10日の潜伏期の後、突然の発熱、全身倦怠感、関節痛がみられ発症し、高熱、発疹、刺し口が三徴候である。重症例では、播種性血管内凝固症候群、多臓器不全の所見を示す。

ツツガムシ病と鑑別が重要であり、症状からするのは困難だが、潜伏期がツツガムシ病よりやや短く、ツツガムシ病では発疹は体幹部が主であるのに対し、本症では四肢末端部に多く、刺し口は痂皮部分が小さい、全身のリンパ節の腫脹を認めないなどの特徴がある。

検査所見では、血小板減少、CRP 陽性、肝機能異常などがみられる。

患者の診断方法は、症状や所見から日本紅斑熱を疑い、抗体の検出(IgM抗体の検出又はペア血清による抗体陽転若しくは抗体価の有意の上昇)または病原体の検出(分離・同定、遺伝子)をもって行う。

治療は、早期にテトラサイクリン系抗生剤を投与するが、テトラサイクリン系抗剤が投与できない場合はニューキノロン剤を投与する。重症例では、テトラサイクリン系抗生剤とニューキノロン剤の併用療法を行う。

本症の予防には、山野に入る際には、肌の露出を少なくし、除虫剤を適宜使用することで、発生地域の山野には特に注意が必要である。

(文責 東京都福祉保健局健康安全室感染症対策課長 稲垣智一)